シリーズ①

新潟地域合併問題協議会の動き

新たに10市町村で任意協議会設置

1市2町による合併問題協議会を8月に発展的に解散し、9月、政令指定都市の実現を目指して、10市町村による新しい任意協議会として「新潟地域合併問題協議会」が設置されました。そこで、広報よこごしでは今回より新しいシリーズをスタートさせ、その内容について連載していきます。

9月5日、新潟地域合併問題協議会の初会合が、新潟市で開催されました。

この協議会には、新潟市、亀田町、横越町、豊栄市、白根市、西川町、潟東村、味方村、月潟村、中之口村が参加、今後小須戸町、新津市も参加する予定になっており、12市町村で政令指定都市の実現を目指した市町村合併の協議が本格的に行われることになります。

初会合では、最初に市町村長と議長のあいさつに続いて、規約、予算の審議が行われ、原案どおり決定されました。規約により長谷川新潟市長が会長に、他の市町村長と新潟市議会議長が副会長に就任しました。続いて、会議運営について協議が行われ、会議や資料の公開等について承認されました。

第2回目の協議会は、10月25日午前10時から、新潟市のホテルイタリア軒で行われる予定になっています。協議会は公開で、傍聴することができます。

また、協議会の資料や会議録などは、協議会のホームページ・役場総務課で閲覧することができます。

町民とひざを交えて懇談
市町村合併懇談会　各地区で開催

市町村合併（将来のまちづくり）懇談会が町内10地区で開催され、延べ227名の皆さまから出席していただきました。

主な質問は次のとおりです。

問　任意協議会の情報提供はどのように行うのか。

町長　広報やホームページ等で周知したい。

問　デメリットの情報が少ないと思うが。

町長　メリット、デメリットのとらえ方が人によって違うので情報提供は難しいが、できるだけ情報を公開していきたい。

問　どのような政令指定都市を目指すのか。

町長　住民が安全で安心して暮らせ、恵まれた交通条件を活かし、日本海側の産業経済の拠点都市の実現により、発展と雇用が確保できるまちづくりを目指したい。また、都市部と農村部の調和のとれた田園型政令指定都市を目指していきたい。

問　合併はいつごろになるのか。

町長　様々な支援が受けられる合併特例法の期限の平成17年3月末までに実現したい。

問　政令指定都市は、いつごろ実現できるのか。

町長　市町村合併が実現し政令指定都市移行の資格を得ることになるが、合併後2年位かかると言われている。12市町村の中で合併への温度差があるのではないか。

町長　以前は市町村によって合併への取り組みに差があったが、現在は全市町村合併し政令指定都市を目指すことで一致していると思う。実現のため小異を捨てて大同につく努力が必要だと思う。合併後住民の声が届きにくくなるのではないか。

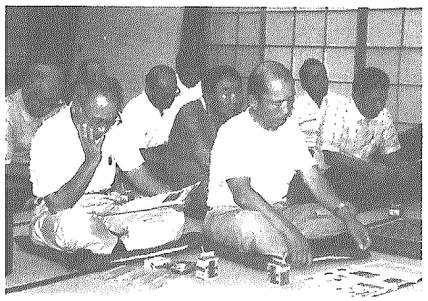
町長　議員、首長は失職するが、地域審議会などで住民の声が届くような制度を作るようにしたい。役場は支所として残り、ほとんどのサービスは支所で行えると思う。削減した経費を他の事業に回し、サービスの向上を図りたい。

問　アンケートの実施についてはどう考えているか。

町長　説明会等で住民の意向の把握に努めたい。意向調査についても、実施したいと考えている。

横越中央地区合併懇談会

市町村合併についてのご意見・お問い合わせは、総務課までお寄せ下さい。


小杉地区合併懇談会

村木リツさん（二本木）
内閣総理大臣などから百歳の祝い

村木リツさん（二本木3丁目）は、明治36年（1903年）1月2日生まれで、現在99歳。あと3か月でめでたく百歳を迎えることから、9月13日、村木さん宅を町長が訪問しました。

リツさんは、4年ほど前に体調を崩され入院。現在は老人ホームで静養中のため、ご家族が代理でお祝いを受け取られました。町長から「百歳は大変めでたいことです。今後もお体を大切にして、長生きして下さい」とお祝いの言葉が贈られ、ご家族からリツさんの元気な頃のことや近況などのお話がありました。

また、18日には、内閣総理大臣と県知事からの祝い状や祝い品が贈られました。

リツさんは、老人ホームで体を横にしていることが多いものの、時々体を起こし、面会に訪れるご家族の方々とお話をするなど、健やかに暮らしているそうです。

長寿を祝う 敬老会
町内の75歳以上の対象者は1,118名

9月15日、町内6地区の会場と9月16日、横雲の里で敬老会が開催されました。今年の町内の対象者（75歳以上、昭和4年12月31日以前に生まれた方）は、1,118名（横雲の里の入所者を含む）。

小杉会場の小杉地区コミュニティセンターでは、約70名のお年寄りが出席。浅見町長から「難局を乗り越え、時代を作り上げてきた皆さんに敬意を表します。今後とも町の発展のため、先輩の立場からご指導ご鞭撻をお願いします」と長寿をよろこぶ言葉があったほか、多くの方からお祝いの言葉が寄せられ、町や社会福祉協議会などから座布団などの記念品が贈られました。

これに対して、出席者を代表して田村則男さんから「多くの方から盛大な会を開いて頂き、お礼を申し上げます。残された歳月を努力して、日本、地域の発展に微力ながら尽くしていきたい」と感謝の気持ち、今後の抱負が力強く述べられました。

その後、地元出身の歌手や婦人会など有志による歌や踊りを楽しんだり、おいしい料理に舌鼓を打ったり、世間話に花を咲かせながら、お互いの長寿を祝いました。

演歌と民踊がたっぷりの楽しいひととき
社会福祉芸能まつり

9月8日、総合体育館アリーナで、社会福祉芸能まつりが開催され、約500人が集まりました。

生活の中の楽しみ・生きがいとして多くの人たちに親しまれている民踊などの町内芸能クラブ。芸能クラブの発表する機会の拡大と、みんなで楽しめる行事を求める住民の方々の要望が多かったことから、町社会福祉協議会と町老人クラブ連合会の主催により今回初めて開催されました。

お揃いの着物や色鮮やかな衣装を身にまとった出演者たちは、日頃練習してきた歌や踊りを一生懸命に披露。また、ゲストとして迎えられた歌手の池田一男さんによるショーも行われました。熱演・熱唱されるたびに大きな声援や拍手が贈られ、さらに、司会から町のよいところ・名物などの楽しい紹介もあり、会場内は熱く盛り上がりました。

観客から、「出演する人も見る人も年も関係なく楽しめて、とてもいいことだと思います」という感想が聞かれました。

ご厚志に感謝

横越町商工会青年部様（佐藤一昭部長）と女性部様（水上悦子部長）より、8月3日に行われた納涼ビアガーデンの収益金の一部と参加者からの寄付金を合わせて5万300円、㈲横山寝具店様（横山清重社長）より、9月15日の敬老会開催の記念品として座布団50枚の寄贈がありました。

大変ありがとうございました。

関連ホームページ　http://www.jotnw.or.jp/

10月は臓器移植普及推進月間（厚生労働省）